

ワード集中講座◆ページ罫線と網かけ◆

やさしい犬のトレーニング

最初の学習

生まれてから3ヶ月までが犬の一生で最も大切な時期です。この時期に子犬は同胎犬と遊びながら、何が危険かを学んでいきます。同時に周囲を冒険しながら調査し、その頭脳を発達させます。注意深い子犬は訓練も容易です。

他人に会わせる

子犬は幼いうちから可能な限り多くの人に会わせておきましょう。友人にひざまづいて子犬に挨拶してもらえば、飛びつく傾向を押さえられます。直接のアイ・コンタクトと、過度な興奮を誘発する言動を避け、子犬が落ち着いて行動できたら、ご褒美におやつを与えます。

他の動物に会わせる

可能な限り、子犬をあらゆる動物とも会わせておきましょう。生後12週以内がベストです。12週を過ぎたら肉食獣としての自然な本能を刺激したり、子犬が恐がったりしないよう十分に注意して会わせましょう。

パピー・パーティー

獣医や地元のトレーニング・クラブの許可を得て、週毎のパピー集会に参加するか、自分で企画してみましょう。こうした非公式の集会を通して子犬は他の犬や他人にどう振る舞えばよいかを速やかに学習します。

建設的な遊びを

毎日、子犬の肉体および精神的刺激となる遊びの時間を持ってあげましょう。建設的な遊びを通しての教育はあなたと犬との絆を深め、単なる楽しみではなく同時に基本的な服従を身に付けさせます。子犬が命令に従ったら、よく誉めて撫でてあげましょう。

悪い癖を付けない

良い行動のみを伸ばすようにします。例えば食べ物をねだったり、注意を引こうと前足で叩いたりといった明確な兆候を見つけたら、どんなに愛らしくともやめさせましょう。成長した後では耐えがたいものとなります。こうした行動を奨励してはいけません。

恐れと恐怖心

子犬が恐がるような状況が最小限になるよう行動をよく管理し保護してあげましょう。幼いうちに怖い目に会ったことが原因の恐怖心は、克服が困難です。

誉めるということ

犬をトレーニングする時には、一定の励ましが必要です。フードやおやつ、おもちゃ、そして飼い主からの肉体的接触や賞賛の言葉は、すべて強力なご褒美になります。犬にあなたの命令に従うことが、あなたを喜ばせるのだと教えましょう。「よしよし」といった誉め言葉はすぐに理解します。

(書式設定内容)

- ・余白⇒上下左右の余白はすべて20ミリ、本文の文字⇒MS明朝10.5ポイント
- ・段組⇒境界線なし、1行は20文字に設定
- ・段落罫線2種類⇒太さ3pt(上下)、太さ1.5pt(下線のみ) &段落に網かけ10%
- ・ページ罫線⇒ハート(線の太さ10pt)、オプション設定⇒基準は本文、上下10pt、左右15pt